



モスクワ日本人学校

しらかば

第8号

モスクワ日本人学校
一人一人が輝く学校
笑顔あふれる学校

児童生徒数 90名

(E-mail)

school@mosnichi.com

(URL)

<http://www.mosnichi.com>

思いを形にする

校長 石川 賢

「私達の貴重な財産である学校を運営しているのは大使館でもなければ校長先生でもない、正に私達保護者（＝児童）自身なのです」。創立十周年記念誌に当時の保護者長から寄せられたコメントの一節です。学校への熱い思いが伝わってきます。

改めて読み返しながら、先日「モスフェス 2020」を思い起こしました。企画・運営に携わった役員の皆様、協力を惜しまなかった保護者や企業の皆様の思いと重なるからです。

今から53年前、開校したばかりの学校で、16人の子どもたちはどのように学んだのでしょうか。冒頭紹介した記念誌には、「アパートの中の先生御夫妻の住居のうち二部屋を教室にあてるといふ状態で、およそ学校といえるようなものではありませんでした」と当時二年生の生徒が寄稿しています。現在のように物が豊かな時代ではありません。たくさんの

不自由があったでしょう。しかし、どんな時も、子どもたちは向学の志を忘れず学び続けました。そして、そんな子どもたちを支えたのは正に保護者自身でした。その献身的な姿が目に見えられます。

そこには、53年経った今も変わることのない思いがあります。未来を担う子どもたちが、常に前を向き、笑顔で歩み続けてほしい。子どもを慈しむ親の願いは不変です。

モスフェス 2020 のモス日の日本からのメッセージで、ジョンレノンの「イマジン」が使われていました。

Imagine all the people Sharing all the world

You may say I'm a dreamer But I'm not the only one

I hope someday you'll join us And the world will live as one

コロナ禍、困難は多い。しかし、あなたは一人ではない。仲間との絆を大切にし、互いに力を合わせれば思いは形にできる。そんな思いが感動を伴って伝わってきました。



開校54年目に向けてスタート

・十月二日は、モスクワ日本人学校の五十三回目の開校記念日でした。子どもたちそれぞれに「自分にとってのモス日」について考えてほしいとの思いから、一日の全校朝会では、開校当時小学部二年生の文章を紹介しました。
 ・ここでは、「創立十周年記念誌(昭和五十一年度)」の巻頭言「抜粋」を紹介します。責任の重さを改めて感じます。ご家庭でもモス日の歴史と伝統等について話題にしていたければ幸いです。

『創立十周年を記念して』

学校長 山本 清

■開校して五年目の昭和四十七年には、生徒数が五十名になりロモノソフスキープロセスペクトに校舎を移転しましたが、更に五年たった今年、丁度五年前の二倍になり、再び現在地に校舎移転をしました。社会制度の違いこのモスクワの地にあつて学校を造り出すことは、実に困難な事業であつた事がしばれます。

■日本の国際進出が増大するにつれて、海外日本人学校も充実拡張されてまいりました。現在では、五十以上の全日制日本人学校が開

校され、二百人以上の学童らが海外で勉強しています。

■この日本人学校の中でも我がモスクワ日本人学校は独特の伝統を形成しつつあります。近年中学部が急速に増加し、児童生徒会の自主的活動が活発になったこと、生徒間の学習が縦割りに組んでも上級生、下級生の関係が極めて緊密なこと、学習効果も能力に応じて確実に伸びていること……など国内の学校と比べて決して負けずとも劣らずの堅実な学校として成長してきています。この十年間の先人達の苦勞を土台にして、更に充実した校風を樹立するのは、正に現在学校で学んでいる皆さん一人一人に課せられた大きな課題です。

■学校と家庭の緊密な連携の下に十周年を契機として、今後の目標を学習環境の整備、より良い経験の場の設定、能動的学習態度の確立など、前進する学校作りにも精力を投入したいと考えています。

■明るく、たくましく、実践力のある子どもとして育つよう、更に発展するモスクワ日本人学校になるよう願って止みません。

祝 「ICT活用教育体制構築に関する実証事業」 協力校に決定!

◆開校記念日を祝うように、文部科学省補助事業「コロナ禍におけるICT活用教育体制構築に関する実証事業」の協力校に決定する通知が海外子女教育振興財団事務局から届きました。7月の応募以来二か月に及ぶ書類審査を経て得た通知です。

◆取組名…第二波に備えて ～不測の事態に備えた、豊かな学びを保障できる継続的学習基盤の強化～

◆取組の概要…高速で安全な学校ネットワーク環境の整備、電子黒板・デジタル教科書の導入により、ICTを活用し「主体的・対話的で深い学び」を実現する。学習する児童生徒の視点に立って指導法の不断の見直しと有効な実践の積み重ねを行い、第2波に備えた豊かな学びを保障する学校づくりを進める。

◆国からの協力金は、5,997,634円(上限)です。非常時でも途切れない学びの保障のために、主として以下の物品等を購入してICTを活用する環境を整え、取組を進めていきます。

- ・電子黒板(10台) …4,228,000円
- ・デジタル教科書(小学部国語・社会・算数・理科) …426,800円
- ・書画カメラ(8台) …412,000円
- ・各種アプリ……375,950円